

# 株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第427号

日経平均株価

6万2713円65銭

▼120円19銭(前日比)

TOPIX

3829.48

▼11.01(前日比)

2026  
5/11  
月曜日

## 日本成長戦略銘柄を狙う

### ペロブスカイトや核融合発電など

日経平均はGW前に6万円を突破したが、それを牽引したのはAI半導体関連銘柄の驚異的な上昇。それ以外の銘柄の多くは物色の圏外に放置されており、AI半導体以外へと物色が拡がるのが更なる上昇には不可欠だろう。その中で注目されそうなのが今夏に策定される日本成長戦略の関連企業。政府は3月に17の戦略分野のうち優先的に支援する61の製品・技術を選定しており、これをベースとする内容が明らかになれば関連銘柄が注目されだろう。

### 優先支援61製品・技術選定

源エネルギー

17の戦略分野で（AIロボット）、オートル光ネットワーク、量子コンピュータ、インテグレーション、防衛産業では小型無人航空機（ドローン）、航空宇宙での宇宙飛行、造船、資



政府は今夏、日本成長戦略を策定する

代船、資源も加えて原油高から資源エネルギーでは、造船、資

日経平均の日足チャート



光が弱い環境でも発電が可能なペロブスカイト太陽電池も注目される。この関連では材料であるヨウ素トップの伊勢化学工業（4107）やK&Oエナジー（1663）などは見逃せない。加えて次世代革新炉では発電効率がよく核のゴミが発生しない核融合発電が本命。INPEX（1605）などに加えて高強度レクターによる慣性核融合の実証を目指し、高強度レクターを開発している浜松ホトニクス（6965）や核融合反応からエネルギーを取り出す重要部品「液体金属ブランケット」を手がける助川電気工業（7711）も注目しておきたい。

4月第4週の動意銘柄

ワコールHDがS高 「身売り迫られている」報道

週明け20日、ワコールホールディングス(3591)がストップ高。月刊FACTAの5月号で国内大手銀行幹部の話として「大株主でアクティビストのシンガポールの3Dインベストメントから身売りを迫られている」と報じられたことが思



ワコールHDの日足チャート

惑買いを誘った。

石油関連NY原先急落

石油資源開発(1662)が大幅に続落したほか、INPEX(1605)やコスモエネルギーホールディングス(5021)、ENEOSホールディングス(5020)など資源開発、石油元売りを含め石油関連が総じて安い。前週末のNY原油先

物価が82ドル台まで9%超の急落となったことで、スプレッド拡大による収益改善期待が急速に後退した。イランのアラグチ外相がホルムズ海峡開放を表明したことが要因。その後、イランの革命防衛隊が再び海峡を封鎖したが、中東情勢改善期待は根強く、時間外でも87ドル台で推移している。

ノジマは家電事業買収

21日、ノジマ(7419)が大幅続伸。21日付の日本経済新聞で「ノジマが日立製作所の家電事業を買収する方針を固めた」と報じたことが材料視された。買収額は1000億円以上となる。家電メーカー買収で商品開発力を高める。家電量販市場の安売り競争とは一線を画し、高付加価値品

の販売による成長をめざすとしている。

アイザワ証G74%減益

アイザワ証券グループ(8708)が急落。26年3月期の決算速報で、経常利益6億6600万円(前期比74.1%減)と大幅減益になった。株式委託手数料や信託報酬が増加したが、プラットフォームビジネス

横田製作増額増配

横田製作所(6248)が一時ストップ高。26年3月期の業績予想について、営業利益で4億8000万円から4億6000万円(前期比1.1%増)へ上方修正、期末配当を35円から40円(前年同期55円)へ引き上げた。販売価格の見直しにより収益が改善した。

リガク米オン社と提携

リガク・ホールディングス(268A)がストップ高。米オン・イノベーション社と資本業務提携を発表した。リガクのX線技術とオン社の光学計測や解析ソフトウェアの技術を融合、次世代半導体に対応した計測ソリューションの高度化と事業領域の拡張を図っていく。筆頭株主のトム・インベストメントの保有株のうち発行株の27%がオン社に譲渡される。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に反発しました。日経平均は前の週から3200円上昇しています。休場中のNY市場がハイテク株を中心に強く、ナスダックやSOX指数が最高値を更新した流れを引き継ぎ、大きく上値を追い上げました。休日明け7日のAI半導体関連への集中物色を超える史上最大の上げ幅で、最高値を大きく確定売り先縮める強いイジカルAI物色の広がりがここまでする。場という認識がAI半導体や周辺銘柄狙う考えです。花咲翁

AI半導体や周辺銘柄狙う



公開価格の2.5倍

バトンスの初値

証グロース市場に新規上場したバトンス(554A)は、公開価格660円の2.5倍となる1674円で初値が生まれた同社はM&A総合プラットフォーム「BATONZ」の企画・開発・運用を行う。

# 日本山村硝子S高

## 半導体向け基板開発加速へ

22日、日本山村硝子(5210)がストップ高。半導体向け大面積ガラスセラミック基板開発加速へ、台湾の工業技術研究院、中国製釉

one(278A)がストップ高。政府が殺傷能力のある防衛装備品の輸出を制約する「5類型」の撤廃を決定したことを受け、防衛用ドローン輸出拡大への

23日、牧野フライス製作所(6135)が大幅下落。政府がアジア系投資ファンドのMBKパートナーズに対し、牧野フライスの買収計画を中止するよう勧告していたと発表された。政府は外為法に基づき、経済安全保障上の懸念があると判断したこと

思惑から買いを集めた。

公開価格4.5%上回る

SQUEEZEの初値

58A)が東証グロ

リス市場に新規上場

公開価格3110円

を4.5%上回る3

250円で初値が生

まれた。同社は自社

ホテル運営、システ

ム開発・提供、宿泊

施設の企画・開発、D

X全般のコンサルテ

ィングなどを行う。

が伝えられている。

ルネサス6連騰で新値

ルネサスエレクト

ロニクス(6723)

が6連騰で新高値。

米半導体大手のテキ

サス・インスツルメ

ンツの1Q売上高が

市場予想を上回った

ことが材料視された。

データセンター向け

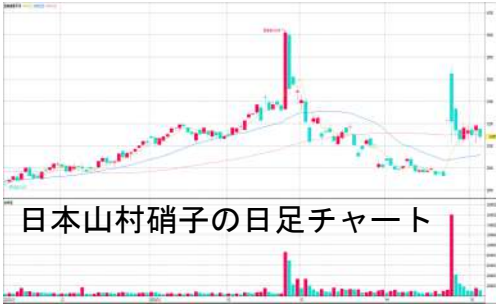
需要に加えて、自動

車向けの需要も回復

しており、同じ車載

向けマイコン大手の

同社株にも資金が向



日本山村硝子の日足チャート

## 牧野フ買収中止勧告

安全保障上の懸念があると判断したこと

23日、牧野フライス製作所(6135)が大幅下落。政府がアジア系投資ファンドのMBKパートナーズに対し、牧野フライスの買収計画を中止するよう勧告していたと発表された。政府は外為法に基づき、経済安全保障上の懸念があると判断したこと

### 松井証券

今こそ始めるデイトレード

## 松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのパナーをクリック



# 岡野バがストップ高

## 原発向け追加受注で大幅増額

23日、岡野バルブ製造(649)がストップ高。26年9月の業績予想について、連続売上高で88億6600万円から1億1000万円(前期比42.7%増)へ、営業利益で9億6600万円から19億5000万円(同2.3倍)へ大幅に上方修正、年間配当で30円から40円(前期30円)へ引き上げた。柏崎刈羽や島根原子力発電所向け追加受注が増加した。

公開価格17%上回る

### 犬猫生活の初値

犬猫生活(556A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格2990円を17.1%上回る3500円で初値が生

# 牧野フライス急反発

## 日系ファンド買収候補に

週末24日、牧野フライス製作所(6135)が急反発。日系ファンドの日本産業推進機構グループ(NSSK、東京)が牧野フライス製作所の買収候補として浮上していることが報じられたことで買戻しの動きになった。22日付では政府が経済安全保障上の懸念があると判断、アジア系投資ファンドのMBKパートナーズに対し、牧野フライ

まれた。ペットフードをはじめとしたペット関連商品の企画・製造・販売を行う。

キヤノン下方修正

1)が大幅に4日続落。23日の取引終了後、26年12月期の業績予想を連結営業利益で4790億円から4560億円(前期比0.1%増)へ下方修正したことが嫌気された。メモリー価格上昇などのコスト増が影響

# GW前1週間の動意銘柄

週明け27日、キーエンス(6861)がストップ高。26年3月期決算は連結営業利益で前期比8.4%増の5957億59

キーエンスがストップ高

増の5957億59

トホライゾン増額増配

テクノホライゾン(6629)がスト

# アクセル全開!

## 七転び八起き

読者の皆様、一週間お疲れ様でした。ゴールデンウィーク明けの7日は3300円超も高く、日経平均は6万3000円近く上昇していましたが、8日はさすがに反落しました。それでも前日比で120円程度下落ですから強い一言です。この欄で何度も書いていますキオクシアHD(285A)は7日のストップ高に続いて上昇し、4万5550円まで上昇する場面がありました。ここまで上昇するともうチャートとか需給とかで語っても仕方ありません。どこまで上がるか見るしかありません。そこで中小型では連休前から紹介していますアクセルスペース(402A)が88円高の703円と急伸していました。同社は宇宙関連であり防衛関連でもあります。防衛関連としてはテラローン(278A)が手が届かない位高く上がっていきましたので、それに続く銘柄が出てきてほしいと願っていますので来週に期待です。(若様)



公開価格50%上回る

梅乃宿酒造の初値(559A)が東証スタンダード市場に新規上場、公開価格600

円を50.0%上回る900円で初値を付けた。日本酒と「梅乃宿の梅酒」や「あらごしシリーズ」など果実の日本酒リキュールを製造、国内外での販売を行う。

ローム買収取り下げ

ローム(6963)が急反落。デンソー(6902)が行っている買収提案に関する検討、取り下げを検討していると伝わったことと嫌気された。デンソーは「株式取得に関する提案について、ローム側の賛同が得られていないことは事実。当社は提案を取下げることを含め検討しているが、現時点で決定した事実はない」と発表している。

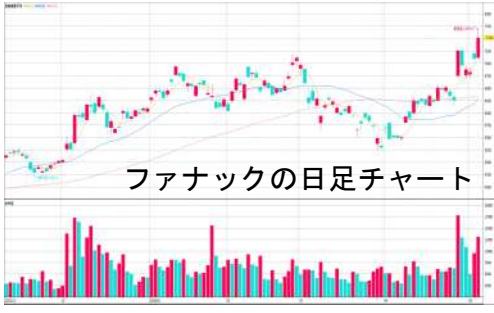
# ファナックがS高

## 16%増益見込み自社株買い

27日、ファナック(6954)がストップ高。27年3

月期の業績について、連結営業利益で前期比15.5%増の2120億円を見込んだ。FA、ロボット、ロボマシンの各部門において、様々な分野で堅調な需要が継続すると見ている。

同時に上限1000万株(発行済株式総数に対する割合1.07%)または500億円の自己株式取得枠の設定を発表し



## はてな資金流出事案

がストップ安。24日の取引終了後、不正な送金指示に起因する資金流出事案が発生したことを発表。4月20日と21日に同社の従業員のアカウントから同社の

してサプライチェーンの強化に注力するとしている。

## きんでん上振れ大幅増配

きんでん(1944)がストップ高。2

# アドバンテスト反落

## 26%営業増益も予想の範囲

28日、アドバンテスト(6857)が3日ぶりに反落した。27年3月期は連結営業利益で前期比25.7%増の6275億円を見込んだが、

市場予想の範囲内だったことから利益確定売りに押された。AI関連向け半導体の生産数量の増加やさらなる複雑化を背景に、半導体テスト市場は過去最大規模になる。中東情勢による影響は直接的には限定的で、供給不足に対応

市場予想の範囲内だったことから利益確定売りに押された。AI関連向け半導体の生産数量の増加やさらなる複雑化を背景に、半導体テスト市場は過去最大規模になる。中東情勢による影響は直接的には限定的で、供給不足に対応

銀行預金口座から外部の口座への送金が行方不明。悪意ある第三者からの虚偽の送金指示があり、これに従い外部口座への送金を実行したという。被害対象額は最大約11億円。

## ピーシーエー8日続落

ピーシーエー(9629)が8日続落。

# テラドロンが最高値

## 防衛用ドローン期待高まる

30日、Terra Drone(278

A)がストップ高まで買われ最高値を更新した。ウクライナのドローン企業と資本業務提携を発表しており、防衛分野への展開に再度期待が高まった。殺傷能力のある防衛装備品の輸出に制約を課す「5類型」の撤廃決定を受けて、防衛用ドローンの輸出拡大が期待されて

27年3月期は連結営業利益で前期比48.6%減の12億6700万円と大幅な減益を見込んだことが嫌気された。状況の変化に合わせて経費の執行などを促進、抑制する可能性を指摘している。

## オリックス銀行事業売却

オリックス(8591)が大幅続伸。オリ

## 富士通コンセンサス下回る

富士通(6702)が大幅続落。27年3月期は調整後連結営業利益で前期比8.8%増の4250億円と市場コンセンサスを下回る予想だった。年間配当を55円(前期50円)を計画し、併せて発行株の5.76%の大規模自社株買いを発表したが反応薄。

富士通(6702)が大幅続落。27年3月期は調整後連結営業利益で前期比8.8%増の4250億円と市場コンセンサスを下回る予想だった。年間配当を55円(前期50円)を計画し、併せて発行株の5.76%の大規模自社株買いを発表したが反応薄。

ックス銀行の全株式を、大和証券グループ本社(8601)の連結子会社の大和ネクスト銀行へ売却することを発表したことが材料視された。譲渡金額は3700億円。事業の選択と集中が評価された。27年3月期に約1242億円の売却益(税引前当期純利益)の計上を予定している。

## TDK大幅続伸

TDK(6762)が大幅反発。27年3月期は連結営業利益で前期比8.3%増の2950億円を見込んだ。データセンター向けニアライン用HDDやAIデータセンター関連が引き続き堅調に推移する。

## テイラド連続S高

テイラド(7236)が連続ストップ高。年間配当800円(前期560円)へ大幅増配を計画しており、利回り妙味から買いを集めた。

# ～決算情報～

## 日本精線

### 今3月期は27%営業増益 超精密ガスフィルター販売増見込む

日本精線（5659）の26年3月期は連結売上高で466億100万円（前の期比0.3%減）、営業利益で30億7700万円（同32.8%減）、純利益で21億4700万円（同33.9%減）となった。太陽光発電パネルの製造プロセスで使用されるスクリーン印刷向け極細線は、中国での太陽光パネルの在庫調整の影響が継続したことに加え、スクリーン印刷用メッシュの素材がステンレス以外の金属に置き換わる動きが見られたことなどにより大幅な販売減となった。

27年3月期は売上高497億円（前期比6.6%増）、営業利益39億円（同26.7%増）、純利益28億円（同30.4%増）を予想。半導体関連業界向け超精密ガスフィルターの需要はさらに強まり販売増を見込む。

## ハリマ化成G

### 26年3月期58%営業増益 増収効果で原料などコスト上昇を吸収

ハリマ化成グループ（4410）の26年3月期の連結決算は、売上高は1037億6300万円（前の期比2.7%増）、営業利益を32億8300万円（同57.6%増）、最終利益23億4500万円（同3.1倍）と増収大幅増益で着地した。

製紙用薬品を中心に販売数量が増加、販売価格の低下や原材料、燃料などコスト上昇を増収効果で吸収し収益が大幅に拡大した。高採算のディスプレイ向け機能性コーティング剤や香料原料のミルセンの販売数量が伸びたことも収益を押し上げている。

27年3月期は売上高1100億円（前期比6.0%増）、営業利益35億円（同6.6%増）、最終利益26億5000万円（同13.0%増）と増収増益を見込んだ。



東エレクトロニクス（4410）の26年3月期は売上高1037億6300万円（前の期比2.7%増）、営業利益を32億8300万円（同57.6%増）、最終利益23億4500万円（同3.1倍）と増収大幅増益で着地した。

### 東エレクトロニクスが大幅反発 2Q42%営業増益見込み増配

東エレクトロニクス（4410）の26年3月期は売上高1037億6300万円（前の期比2.7%増）、営業利益を32億8300万円（同57.6%増）、最終利益23億4500万円（同3.1倍）と増収大幅増益で着地した。

エア・ウォーター（4088）が大幅に指定し、上場契約に違反した。企業行動規範の遵守を確保するための必要事項（業務の適正を確保するための必要事項）の違反は、内部管理体制の整備が重要である。高管理の必要が高いためと認められる。

### エア・ウォーター特別注意指定

日本電気硝子（5214）が急統落。26年12月期第1四半期の連結決算は、営業利益は64億8100万円（前年同期比17.9%減）と大幅減益で着地したことが失望された。半導体用サポーターガラスが減少しており、前期計画の330億円（前期比3.3%減）に対して

住友商事（8053）がストッパー高。26年3月は連結純利益で前期比4.9%増の6300億円を見込み、上限2000万円株（発行済株式総数に対する割合約1.8%）自己株式取得枠の設定と式取得の株式分割を発表した。

### 住友商事1対4分割

TOTOSTOP（5332）がストッパー高。27年3月期の業績は連結営業利益で前期比11.6%増の600億円を見込んだ。半導体デバイスメーカーの既設工場での稼働率向上に伴い、交換需要が堅調に推移し、半導体製造装置に採用されているセラミック製品も拡大している。

は第2四半期発表時に公表する。

も低進捗。



# 中勢強気相場を暗示

## 9月までに6万9000円台?

光世証券 エグゼクティブ・マネージャー  
**西川 雅博 氏**

5連休明けの日経平均は320円高(+5.6%)と記録的な上昇となった。最も楽観的な見通しを遥かに超える急騰ぶりである。これ以上の上昇率は過去2、3年で何回か記録しているが、ほとんどが急落時の反発局面だった。今回は史上最高値からの大幅高で歴史的と言える。しかも、イラン情勢の不透明感が完全に払しょくされてない中で、急騰だ。高値警戒感は当然だが、単日の上昇は平時のテクニカル分析では説明できない要因があると思われる。

2008年のリーマンショック後、日経平均で過去90日間の高値から1%以内のドローダウン水準から1日で3.5%以上の上昇を記録したことが6回あった。今回と同じように、高値圏にありながらさらに大幅上昇したケースである。その後の足取りを検証すると、6回とも4カ月以内にさらに10%以上の上昇を記録している。めったにない急騰相場は中勢強気相場を暗示するシグナルの可能性がある。今回の場合だと、9月ま

で6万9000円台に到達することになる。イラン情勢沈静化というより、想像を超えて進展するAI革命の効果に加え、これから本格化する高市政権の経済政策という歴史的な構造変化が背景となる。とりわけ、6月に取りまとめられる2026年骨太の方針は要注目だ。多少の紆余曲折があっても、高市政権や日本株に対する内外投資家の高い評価は一過性で終わらないとみている。

4月以降、AI・半導体関連株に物色が偏ったため、NT倍率は上昇が続いた。月初めの14.5倍水準から5月7日には16.4倍まで急騰した。最高値を更新してからも上値を迫る動きが続いた。米国のAI関連やSOX指数の大幅高が波及した格好だが、米国で好需給やハイテク株決算が一巡して、さすがにスピード調整に入ってもおかしくない時期だ。

TOPIXが2月末に高値をつけた時、PER(12カ月予想)は20倍水準だったが、直近では18倍まで低下している。5%増益とPER19倍回復でトータル10%程度の株価上昇は難しくないだろう。株価上昇は資産効果により景気、実体経済に好影響を及ぼす。ここからは、半導体関連株の下落というより、TOPIX型銘柄も物色されて一極集中が是正されながら好循環の堅調相場が継続するイメージだ。そうした場合には過熱感が生じにくいという効果も考えられる。

個別には味の素(2802)、トヨタ(7203)、キヤノン(7751)など。

### 相場展望

可能性がある。今回の場合だと、9月ま

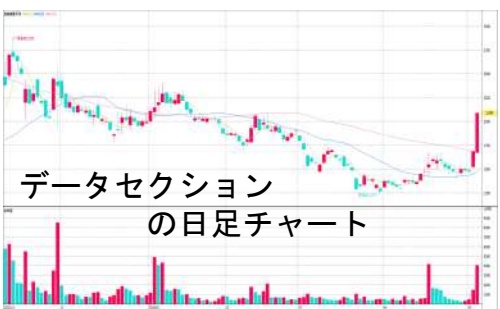
## データセクションS高

### 台湾コンパルと連携強化

結している。

#### 横河電小幅増益嫌気

8日、データセクション(3905)がストップ高。7日の取引終了後、台湾を本拠の電子機器メーカーであるコンパル・エレクトロニクスとの連携強化を発表したことが材料視された。コンパルからエヌビディアの最新アーキテクチャを採用した「NVIDIA B300」搭載GPUサーバー635台(GPU計5080個)一式を取得する売買契約を締



#### スクロール配当利回り

スクロール(8005)がストップ高。株主還元に関する方針を変更し累進配当を実施することから、27年3月期の年間配当は102円(前期59円)へ大幅に増配、前日終値を基準とした配当利回りは7.9%の高水準で、利回り妙味から買いを集めた。

# 星野三太郎の 株街往来

～今でも現役のゲーム機～

MI測定やバランス感覚を高めるトレーニングが気軽にできる。日々の健康管理がゲーム感覚で把握できる。これだけ古いと修理を任天堂も行っていないので、中古品をオークションサイトで購入して故障から1カ月後に再びトレーニングが可能になった。

SNSを検索すると同じように故障で困っている方が少なくなかった。これだけ息長く愛されるゲーム機を開発する任天堂の凄さを認識したが、現在のスイッチ系では健康管理ができないので残念だ。ゲーム機はおおよそ4～5年でモデルチェンジするが、その際には旧ソフトも使えるようにしてほしいと切に願うばかり。良いものは進化させたい。残してほしい。



筆者は

毎朝、任天堂のWiiを使ってから仕事を始めるのだが、そのWiiが故障してしまつて、毎朝のルーティーンが崩れてしまった。Wiiは2006年の12月に発売されたので、そこから18年が経過している。その古いゲーム機を未だに使っているのはWiiFitというフィットネスソフトを使っているから。B



## New product

**松屋フーズ** 国産雪国育ちロースかつ  
大満足間違いなしのボリューム感



国産雪国育ちロースかつ定食

松屋フーズホールディングス（9887）は、とんかつ業態の「松のや」で「国産雪国育ちロースかつ」の販売を開始した。

北の大地ですくすく育った国産豚を使用したロースは、大満足間違いなしのボリューム感。国産だからこそその肉のやわらかさ、ジューシーさ、脂身の甘さが際立つ逸品。素材本来の旨味を最大限に引き出す紅塩を添えて提供している。シンプルに味わう「国産雪国育ちロースかつ定食」だけでなく、海老フライ・ささみかつとの盛合せ定食「国産雪国育ちロースかつ丼」も用意している。価格は国産雪国育ち”ロースかつ定食で税込み890円から設定している。

**カゴメ** 1日分のビタミンCを摂取  
さわやかな酸味と渋みのアクセント

沖縄シークワサーミックス



カゴメ（2811）は、「野菜生活100」季節限定シリーズから「野菜生活100沖縄シークワサーミックス」を6月2日から8月下旬まで期間限定で全国で発売する。

さわやかな酸味と渋みのアクセントが特徴の沖縄県産シークワサーの味わいに仕上げた野菜&果実100%ミックスジュース。砂糖不使用で、1日分のビタミンCを摂ることができる。朝食のおともや、リフレッシュしたいときにおすすめ。パッケージには、沖縄の海や首里城、シーサー、ノグチゲラ（県鳥）などをデザインし、沖縄ならではの魅力を表現している。

加えて、「野菜生活100沖縄シークワサーミックス」の味わいなどを紹介するプロモーション動画を制作し、店頭やブランドサイトで公開。195mlで税込み155円前後の価格を予定。

## 潮流

## AIインフラ資金流入加速

## 日経平均7万8000円まで上昇も

marKet / bAnk



4月27日の米株式市場でハイテク株の多いナスダック総合指数が過去最高値を更新した。半導体の代表銘柄であるエヌビディア株が約半年ぶりに最高値を更新した。昨年10月の高値更新後から今年4月上旬にかけてのレンジ相場から抜け出した。

レンジ相場から抜け出すきっかけとなったのは、インテルやテキサス・インスツルメンツ（TI）といった半導体株の好決算だ。人工知能（AI）の開発と活用が急速に広がるなか、その恩恵を最も受けやすい代表格としての地位は揺らいでいない。時価総額が5兆ドルを超えて首位を走る。

イラン情勢は不透明感が続き、インフレや経済の先行きは曇っている。そのなかでもAIの普及が着実に進んでいるとの観測を背景に、半導体関連を中心にAIインフラ関連銘柄に資金流入が活発になった。

フィラデルフィア半導体株指数（SOX）は18日連騰の記録、半導体関連への買いが勢いづいた。27日の日経平均株価の終値が6万0537円36銭と過去最高値を更新し初めて終値で6万円台に乗せた。一時、6万0903円95銭を付けた。2025年10月の5万円到達から半年で1万円上げ、史上最速の大台替わりとなった。

今回の上昇相場の


起点を米オープンAIが「チャットGPT」を公開した2022年11月30日に置くと、日経平均は2万7968円だ。これを起点としてAI相場が続いているとするならば、日経平均の上昇率は2.1倍となる。

単純にアベノミクス相場の上昇率を掛け合わせると、日経平均は7万8000円台まで上昇余地が広がる。

企業はコーポレートガバナンス（企業統治）改革の一環で資本効率の改善をはかり、自社株買いを進めた。海外投資家がそれを評価し、日本株に資金を投入した。米著名投資家ウォーレン・バフェット氏は19年に伊藤忠商事や三菱商事など5大商社への投資を始めた。同時期に東京証券取引所から上場企業に対して「資本コストや株価を意識した経営」が要請されたことも重なり、日本株の上昇は加速した。

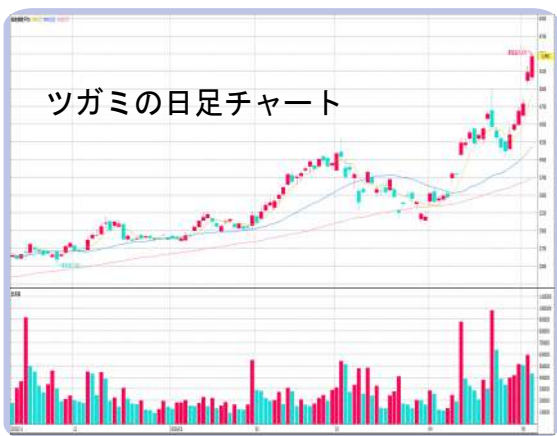
23年3月末に2万8041円だった日経平均は3年で2倍以上になった。海外投資家と企業の自社株買いが日本株の牽引役となった。今回も海外投資家の買いが相場を牽引している。

潮流銘柄はツガミ（6101）、パワーエックス（485A）、SWCC（5805）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール  
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。

## 海外投資家と自社株買い





敏腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



「ドル離れ」が進んでいる

ドル円の日足チャート



先週の日経平均は前週末比約203円安と4週間ぶりの下落になり、週足も陰線となった。週初に前週の流れを汲みAI関連株が相場を牽引、日経平均は6万0903円の新高値を付けたが、その後は過熱感から売りに押される展開となった。しかし、高値、安値を切り上げる形となり、上昇トレンドは継続している。

政府は4月30日のナイトセッション取り引きに於いて為替介入を行い160円台から一時は155円台まで円高が進んだ。160円台定着を嫌がった形だが、この介入で日本株は大きく売られなかった。2024年7月11日の為替介入時には円高を嫌気して一時は1000円強下げたが、今回は一旦下げに反応した後プラス圏で推移した。

これは今までのない動きである。これはおそらく米国偏重の資産を見直す「ドル離れ」が進んでいるからと見られる。トランプ大統領の世界との協調性の無い独断の相次ぐ行動に対し、ドル資産への偏りを修正する動きが加速しているようだ。投資主体別売買動向を見ても海外投資家は4週連続で日本株を買い越しており、投資資産の再配分は進んでいるようだ。TOPIXコア30がよく買われていることが新規の買いが入ってきている証左だろう。

日経225先物の日足チャート



企業経営者も世界基準にあった財務諸表を意識するようになり、確実に変化が起きている。変わりつつある日本株は魅力で、オンリーワン企業や世界シェアが高い企業の物は色は旺盛だ。円高でも株が買われるようになってきているのは強い日本の復活の兆しでもある。中東情勢が混沌とするなか、従来であれば大型連休前は調整が入っていた。しかし、今回は大きな調整は入っていない。5月は決算発表が本格化してくるが、よほど企業が慎重にならない限り強い相場は続くと思われる。

(ハチロク)

# 強い相場は続く

## 為替介入も株価下がらず

